

# 東京駅丸の内駅舎保存・復原



丸の内側外観（撮影：株式会社エスエス東京）

建築主：東日本旅客鉄道株式会社  
 設計者：東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 鎌田雅己、金森勇樹  
 株式会社ジェイアール東日本建築設計事務所 田原幸夫  
 株式会社東京建築研究所 蓮田常雄  
 施工者：東京駅丸の内駅舎保存・復原工事共同企業体  
 代表 鹿島建設株式会社 金丸康男

## 免震化した経緯及び企画設計等

重要文化財である東京駅丸の内駅舎は、100年にわたって使い続けられている現役の建築物でもある。本プロジェクトは、重要文化財としての建物を保存・復原しつつ、如何に現代の最先端施設として再生するかが基本的テーマであった。

2階建の鉄骨煉瓦造の既存駅舎に1層増築して創建時の姿に復原したものである。鉄骨内蔵煉瓦壁の構造性能を実験により評価し、大地震時においてもレンガ壁にひび割れを発生させないことを目標に補強量が格段に少ない免震構法による改修を選択した。

## 技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

現存している外壁や鉄骨を可能な限り保存しつつ、戦災で失われた3階部分やドーム屋根を創建時の姿に厳密に復原。さらに建物の保有する歴史的価値を生かしながら、現代の駅・ホテル・アートギャラリーとして安全で魅力的な空間を創り上げ、「保存」と「活用」の両立を実現した。

中央線高架橋が近接していることや、駅舎が335mに及ぶなどの課題を、アイソレーター352台、オイルダンパー158台を設置した減衰効果の大きいシステムを採用することにより克服した。総武線への階段・ESCAは新設地下に取り込み非免震の昇降路とし、ドーム前の渡りには変形分割型の金物を用いて安全性を向上させている。

## 建築概要

建設地：東京都千代田区丸の内1丁目  
 建築主：東日本旅客鉄道株式会社  
 設計：全体統括 東日本旅客鉄道(株) 東京工事事務所  
 建築・設備 (株)ジェイアール東日本建築設計事務所  
 構造 (株)東京建築研究所  
 施工：東京駅丸の内駅舎保存・復原工事共同企業体 (鹿島・清水・鉄建 建設共同企業体)  
 建築面積：9,683.04㎡ 述床面積：42,971.53㎡  
 階数：地上3階(一部4階)、地下2階  
 高さ：約45m  
 構造種別：鉄骨煉瓦造、RC造、一部S造、SRC造、免震構造

## 選評

本事業は1914年に竣工し1923年の関東大震災にも耐えた、日本の建築界そのものを代表する辰野金吾の設計による重要文化財の保存事業である。竣工1914年から100年を迎えるにあたり、当時の構造に対する知見が現在とは異なる中で、当時の設計を否定することなく、いかにこの歴史的建造物を忠実に残すかについて、設計者は苦勞したものと思われる。その解決策として、レトロフィット免震を計画することにより、歴史的構造物を可能な限り残すことに成功している。

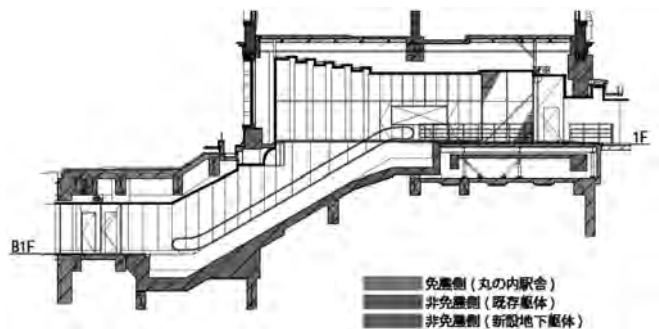
重要文化財は基本的には建築基準法に準拠する必要はないが、一日何十万という旅客が利用する駅舎として、さらにホテル・美術館もある建築物として機能性のみならず耐震性も含め高い安全性を確保しなければならず、既存架構の詳細な調査ならびに性能実験を通して、既存架構の可能な限りの保存と安全性の確保を実現している。

鉄道駅舎として多くの利用客の利便性を損なうことなく工事を進めなくてはならないという困難な状況の中で、現在の耐震性を満たす建築物を構築するための免震耐震改修技術を駆使して具現した本建物は免震協会賞・作品賞にふさわしい作品であると評価できる。

(細澤 治)



改修前後のドーム空間（撮影：株式会社エスエス東京）



総武階段 断面図